吉田壽記念三重医学研究振興会賞

氏名（年齢）　　森田 哲正　（58歳）

所属・職名　　鈴鹿回生病院　副院長（整形外科）

〇受賞の感想と今後の抱負

　この度は吉田壽記念三重医学研究振興会賞という栄ある賞をいただき大変光栄に思っています。長年ご指導いただいた、藤澤幸三先生、平田　仁先生、加藤　公先生に感謝いたします。この賞には2つの意味があり、今までの活動を評価していただいたことと、今からの活動に期待しいるということと考えており、受賞の喜びと共に身が引き締まる思いです。後輩の育成もちろんですが三重県の外科発展にこれからも微力ながら貢献していくつもりですのでご支援、ご指導程よろしくお願いいたします。

〇受賞テーマ

三重県の基幹病院と約20年にわたり連携し、手外科領域の重度外傷患者の受け入れと治療を行うとともに手外科疾患の解明と治療法の確立に貢献」

〇臨床医学（診察）分野に於いて成し遂げた顕著な業績

約20年にわたり三重県内の基幹病院と連携し、手外科領域の重度外傷患者の受け入れと治療を行ってきました。また手外科疾患の病態解明と治療法の確立に貢献しました。さらに手外科（上肢外科）に関する2つの研究会を約20年にわたり毎年開催し、三重県内の整形外科医の手外科知識の向上や若手医師の手外科技術習得に貢献しました。また手外科専門医を志す若手医師を当院で直接育成し、三重県の手外科の普及に貢献しました。三重県内の理学療法士、作業療法士が手外科を勉強できる研究会を併催し、チームアプローチの面からも手外科の普及に貢献しました。

〇業績の概要と将来展望

**概要**

・四肢切断や上肢の皮膚欠損を伴う重度外傷に対し、マイクロサージャリーテクニックを用いた再建を行い、機能回復の成績向上に努めました。また私の勤務している鈴鹿回生病院は三重県の北中部に位置し、高速道路を用いた移動が容易なため、北中部地区のみでなく、名張上野地区、尾鷲紀南地区、松坂伊勢地区など広く地域基幹病院整形外科と連携し、重度上肢外傷患者の受け入れと治療を行ってきました。さらに最近では褥瘡、糖尿病性壊疽などの紹介も受け、このマイクロサージカルテクニックを応用して再建治療を行っています。

・手根管症候群やばね指など日常診療でみられる手外科疾患に対して安全で有効な治療法を模索し、治療法の確立に貢献しました。また手根管症候群ではその病態を解明するための臨床研究にも貢献しました。さらに手術治療ではオリジナルの母指対立再建法を考案し新たな治療法を確立しました。

・上肢のスポーツ障害、特に野球肘に対する治療を監督、理学療法士とチームアプローチで取り組み、保存的治療では投球制限、体幹の柔軟性などの改善を行い、再発防止のため投球フォームの矯正、指導を行いました。また保存的治療が困難な場合は骨釘移植や骨軟骨柱移植を行い、スポーツへの完全復帰を実現しました。

・手の変形性関節症に対しては特に母指CM関節症を中心に治療法の確立を目指しました。保存的治療では母指IP、MP関節が可動可能なオリジナルのCM関節固定装具を考案し、その有用性を検討し、三重県だけでなく東海地域にも普及させました。またステロイドの注射治療の有効性について報告し、さらには手術治療法の有効性についても立証しました。

・2000年より約20年間、三重県上肢外科研究会を毎年春に開催しています。この会は若手整形外科、開業医、理学療法士、作業療法士を対象に肩から手に関する最新の知見や情報を提供しています。

・上記会とは別に2000年より約20年間、三重県上肢外科研修会を毎年秋に開催しています。この会は手外科専門医を育てるため三重県内の若手整形外科医を対象としています。内容としては手外科の疾患に関する講義とハンズオンセミナー（顕微鏡を用いたマイクロサージカルテクニックの技術習得やインスツルメントの使用手技習得など）を同時に開催しています。なおこの2つの会は2000年から2019年までは毎年必ず開催されていましたが2020年はコロナ禍の影響で開催を断念しました。2021年には新型コロナウイルス対策のためWEB開催を予定しています。

・また上記2つの研究会の対象を理学療法士、作業療法士に広げています。さらにワークショップも併催しています。手外科（上肢外科）、スポーツ整形外科ではチームアプローチ治療が重要です。正しい知識をもとに十分な討論ができる理学療法士、作業療法士の育成に貢献しました。

・2019年より四肢の先天奇形に対する手術指導のため不定期ではありますが国立三重病院で手術を行い、後進の育成を図っています。

**関連分野における本業績の特筆すべき点**

**・**四肢切断や上肢の皮膚欠損を伴う重度外傷は拘縮や廃用手、切断に至ることが多かったのですが、マイクロサージャリーテクニックを用いることで良好な骨、軟部組織が再建され、早期よりリハビリが容易となり手の機能を十分に回復させることができるようになりました。また重度外傷では初期治療が予後を左右するといわれているため初期治療やリハビリを当院で行える環境を整えることで治療成績が向上しました。

・手根管症候群、ばね指、変形性関節症などは日常診療でよく遭遇する疾患ですが治癒するこが困難な疾患でもあります。これらの疾患に対し安全で有効な治療法を確立させました。

**本業績の将来期待される点**

毎年行っている研究会及び研修会でマイクロサージャリーテクニックを習得した整形外科医が育ってきています。また当院では手外科専門医を目指す整形外科医を毎年受け入れ、ワンツーマンで研修を行っています。現在は3名の若手医師が研修しており、彼らが育ち三重県内でさらにマイクロサージャリーテクニックを広げてもらえるものと確信しています。また手外科専門医が増え、ネットワークができれば各治療法の比較検討が容易になり新たな治療法の開発、検証に有用と考えます。

〇本業績における実績

・2001年から2021年6月までに私が鈴鹿回生病院で直接執刀した手外科（上肢外科）手術数は計6,857件でした。この中には手術介助や手術指導した症例や他院から依頼を受けて出張手術をした症例数は含まれません。コロナ禍でも手術数は減っていません。また最近の数年間は手外科専門医を志す若い医師の執刀を介助しながら指導しているため当院の手外科（上肢外科）に関する手術数は当初の約3倍になっています。

・2000年より約20年間、三重県上肢外科研究会を毎年春に開催しています。この会は若手整形外科、開業医、理学療法士、作業療法士を対象に肩から手に関する最新の知見や情報を提供しています。2020年は新型コロナウイル蔓延のため中止となりましたが2021年はWEBでの開催を行いました。

・上記会とは別に2000年より約20年間、三重県上肢外科研修会を毎年秋に開催しています。この会は手外科専門医を育てるため三重県内の若手整形外科医を対象としています。内容としては手外科の疾患に関する講義とハンズオンセミナー（顕微鏡を用いたマイクロサージカルテクニックの技術習得やインスツルメントの使用手技習得など）を同時に開催しています。なおこの2つの会は2000年から2019年までは毎年必ず開催されていましたが2020年はコロナ禍の影響で開催を断念しました。2021年には新型コロナウイルス対策のため11/14にWEBでの開催を行いました。

〇略歴

学歴

1989年3月31日　三重大学医学部卒業

1992年4月 1日　三重大学医学部大学院入学

1997年3月31日　三重大学医学部大学院満期終了

職歴

1989年 6月1日　三重大学医学部付属病院研修医

1990年 7月1日～1992年 3月31日　市立伊勢総合病院　嘱託医

1997年 7月1日　三大学医学部　助手

2000年 4月1日　鈴鹿回生病院　整形外科　医長

2004年 4月1日　USA Richmond AOC(Adovanced orthopaedic center) 留学

2004年10月1日 鈴鹿回生病院　整形外科　部長

2012年 4月1日　鈴鹿回生病院　診療部長

2016年 4月1日　鈴鹿回生病院　副院長

2019年 4月1日　鈴鹿回生病院　理事

〇専門分野

手外科（上肢外科）、マイクロサージャリー外科、スポーツ整形外科、リウマチ外科

〇医学博士、専門医資格など

1994年12月10日　義肢装具等適応判定医

1996年 2月29日　 日本整形外科専門医

1998年 2月28日　 日本整形外科認定スポーツ医

1999年 3月 1日　 日本リウマチ学会専門医

2005年 3月 6日　　臨床研修指導医

2002年10月 1日　 日本スポーツ協会公認スポーツドクター

2006年 8月　　　 特定非営利活動法人ハンドフロンティア　理事

2007年 1月 7日　 日本手外科学会専門医

2016年 4月 1日　 三重大学医学部臨床教授

2007年 4月 1日～2017年 4月 1日　社会保険審査員

2017年 4月 1日　日本整形外科学会後期研修基幹病院（鈴鹿回生病院）専門研修プログラム統括責任者

〇所属学会および評議員など

日本マイクロサージャリー学会評議員、日本手外科学会代議員(専門医資格認定施設認定委員会 副委員長）、日本肘関節学会代議員、中部手外科研究会世話人、東海手外科研究会世話人、東海マイクロサージャリー研究会世話人、三重県上肢外科研究会代表幹事、特定非営利活動法人ハンドフロンティア理事、中部日本整形災害外科学会評議員、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、会員